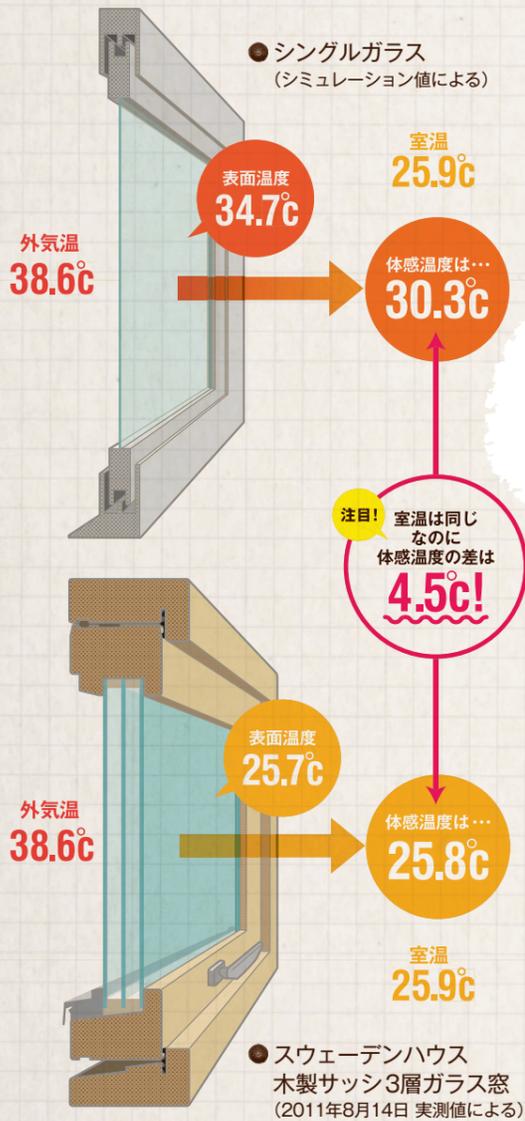


下図は、夏の外気温38.6℃、室温25.9℃の場合の窓ガラス表面温度(室内側)です。木製サッシ3層ガラス窓の表面温度は、あるオーナー様のお宅での実測値で25.7℃。もし、この窓がシングルガラスだったとすると窓表面温度は34.7℃となります。それぞれの体感温度を計算すると、30.3℃と25.8℃。室温が同じでも、窓の性能の違いで4.5℃もの差が出るのがわかります。



CHAPTER:3 >>  
しっかり閉じて快適キープ。

前号(153号)で、私たちの体感温度は周囲の表面温度に影響されることをご紹介しました。家の中の床・壁・窓・天井のうち、最も外気温に影響される窓が影響を受けにくければ、室内は快適な温熱環境となります。

この体感温度の差=4.5℃を、エアコンで下げようとする、大変です。窓の性能が低いと、エアコンをフル稼働させているそばから、どんどん熱が入ってきてしまうのですから。



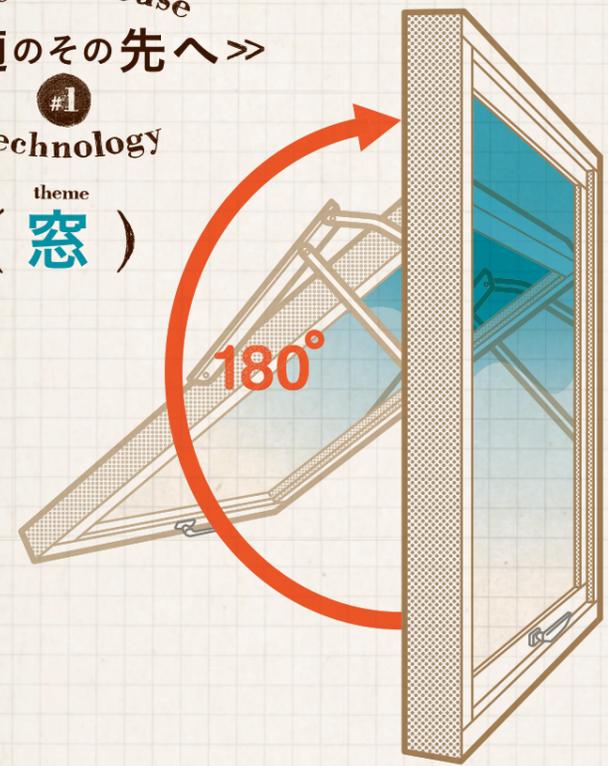
又、冬は室温に比べ、窓の表面温度が低い程、熱を奪われて体感温度が下がり、寒いと感じます。これは家の間取りを考えると、北側に美しい景色が広がっていたら、スウェーデンハウスなら、北側に大きな窓を設けて景色を楽しむことができます。リビング階段も、吹抜けも、温熱環境から考えた間取り上の我慢は、必要ありません。

CHAPTER:4 >>  
窓づくりも私たちの大切な仕事です。

スウェーデンハウスは窓の性能向上を追求し、自社で木製サッシ3層ガラス窓を開発・生産しています。それは窓の良し悪しこそが、室内の暖かさや寒さやエネルギー効率などの決め手になることを熟知しているから。そして、健康的な暮らし、自由な間取り、静かな室内、季節にあわせて窓辺を飾る楽しみ...それらを実現するためでもあります。高性能の窓は多くの「心地よさ」につながっているのです。

Sweden House  
快適のその先へ>>

#1 Technology  
theme (窓)



快適は光射し込む窓からやって来る!

私たちは外が心地よい環境のときには、窓を開けて光や風、香り、音などの「快」を家の中に入れようとしています。しかし、いつでも外の環境が良いわけではありません。季節や天候によって、また地域や敷地条件によって、快適な室内環境を守るために、窓をしっかりと閉めることも必要になります。ところが、窓をしっかりと閉めても全ての「不快」をシャットアウトできるわけではありません。例えば暮らしたい心地に大きな影響を及ぼす「暑い」「寒い」

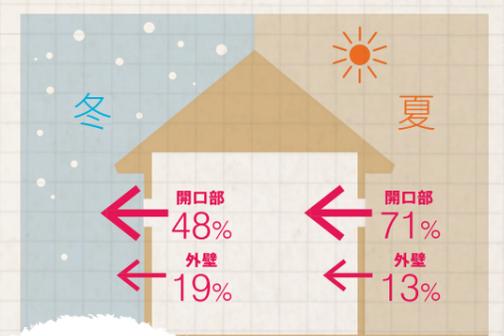
などの温熱環境に関することがあります。右図は、一般的な住宅の開口部(窓やドア)からの熱の出入りを示しています。窓を閉めていても、夏は全流入熱の内71%が開口部から入り、冬は全流出熱の内48%が奪われていきます。つまり、家の中で一番、外気温の影響を受けやすい場所は窓なのです。窓は開けている時に注目しなければならぬことが、おわかりいただけると思います。

CHAPTER:1 >>  
“心地よさ”は窓から。

「光や風を上手に取り入れて、心地よく過ごしたい...」多くの人が望まれること。住まいにおいて、その願いを叶えるのは窓の役割です。美しい景色を窓越しに楽しむことも、窓をアクセントにこだわりの外観を彩ることも、暮らしを楽しむためには大切なことではないでしょうか。スウェーデンハウスの木製

サッシ3層ガラス窓の魅力のひとつは、なんととっても窓枠が木製で、大きく開くところ。独自の開閉方式で180度回転するこの窓は、心地よい光や風を思う存分、家の中に取り込むことができます。そしてシンプルなお木製の窓は、見た目にもやさしく、飽きのこないデザイン。外の景色を一枚の絵のように美しく切り取ってくれます。

CHAPTER:2 >>  
窓にこだわる理由。



窓の性能は体感温度にも影響しますよ!

外からの熱の流入量(夏):流出量(冬)を100%とした場合に開口部を介する割合

出典:社日本建材・住宅設備産業協会試算

